

# ヒートアイランド対策技術分野（建築物外皮による空調負荷低減等技術）の進捗状況及び来年度の方針について

## 1. 平成21年度の事業報告

### (1) ワーキンググループ（WG）開催経緯等

21年 5月28日	第1回WG開催 (建築物外皮による空調負荷低減等技術実証試験要領の検討及び実証機関の公募・募集に関する検討等)
10月8日	拡大WG開催 (事業や対象技術への要望・意見、実証によるメリット等の向上についての要望・意見) 第2回WG開催（非公開） (実証試験の進捗に報告)
22年 1月14日	第3回WG開催（非公開） (実証試験結果報告書取りまとめの検討)
3月 1日	第4回WG開催 (実証試験結果報告書の検討)

(WG検討員名簿は別紙参照)

### (2) 実証試験状況等

実証運営機関：財団法人建材試験センター

(実証対象技術) 3機関合計 71技術

実証機関：財団法人建材試験センター

(実証対象技術) 合計	27技術
窓用日射遮蔽フィルム	13技術
窓用コーティング材	7技術
窓用後付複層ガラス	1技術
高反射率塗料	1技術
高反射率ブラインド	3技術
日射遮蔽網戸	1技術
開口部用後付建材	1技術

**実証機関：大阪府（環境農林水産総合研究所）**

（実証対象技術）合計	8 技術
窓用コーティング材	1 技術
高反射率塗料	2 技術
高反射率瓦	4 技術
屋根用日除けシート	1 技術

**実証機関：財団法人日本塗料検査協会**

（実証対象技術）合計	36 技術
高反射率塗料	36 技術

## 2. 来年度の方針

### 〔課題〕

- ・本技術分野は、手数料徴収体制に移行後も実証件数が平成20年度77件、21年度71件となっており、実証事業としては一定の成果を挙げていると考えられる。今後も、環境技術開発者のニーズも踏まえ、新たな技術を実証対象に加える必要がある。
- ・本事業により「認証」または「評価」を受けたと表現をして、宣伝および販売を行っている例が一部に見受けられる。

### 〔改善策〕

- ・保水性建材等実証のニーズがある技術については、引き続き実証方法の検討を行い、対象技術に追加する。
- ・平成22年度実証試験実施要項で定められるロゴマークの使用規定に従い、実証を行った技術がユーザー等に正しく認識され、普及させていくために追記させる必要な情報について検討を進める。  
また、情報発信を積極的に行い、実証済み技術の普及や本事業の認知度向上を図る方策について検討する。

### <今後の予定>

- 実証運営機関の選定（4月上旬）
- 第1回WG開催・実証試験要領の策定・実証機関の公募（4月下旬）

平成21年度環境技術実証事業検討会  
ヒートアイランド対策技術分野  
建築物外皮による空調負荷低減等技術  
ワーキンググループ 検討員名簿

- |      |   |
|------|---|
| 近藤靖史 | 東京都市大学 工学部建築学科 教授                         |
| 武田 仁 | 東京理科大学 理工学部建築学科 教授                        |
| 足永靖信 | 国土交通省 国土技術政策総合研究所 建築研究部 環境・<br>設備基準研究室 室長 |
| 笠松正広 | 大阪府 環境農林水産部 みどり・都市環境室地球環境課<br>課長          |
| 森川泰成 | 大成建設株式会社 技術センター 建築技術研究所 所長                |